

必要性はあるのか？

JR壬生川駅周辺整備

(日本共産党西条市議団)

問

市は、JR壬生川駅西地区を中心に、約25億円を投入する都市基盤整備事業を行うことを明らかにし、平成21年度一般会計補正予算に6億4千万円を計上、今定例会で約4億4千万円を計上している。市民からは、建物取り壊し補償費6千万円まで支払って、なぜこの地に広場が必要なのかとの声が高まっているが、この事業は見直すべきではないのか。

答

壬生川地区まちづくり基盤整備事業については、平成21年度に、歩道整備、道路の用地費・設計委託費などへ予算を組んでおり、今定例会では、駅西広場及び自由通路の設計費、用地費や補償費などの予算を計上している。

駅西広場の必要性については、平成21年3月策定の都市計画マスタープランにおいて壬生川駅周辺の再整備を図ることとしており、新たな拠点整備を行い、駅西と駅東の両地区を結び回遊性の創造によるにぎわいの再生を大きな目標としており、本市に必要な事業と考えている。



開発を待つ駅西地区

交通弱者への配慮は？  
道路網整備計画事業

(無党派)

問

幹線道路への交通量の集中とともに、いわゆる抜け道を通る車が目立っている。この事業は、歩行者(特に交通弱者)への配慮を伴った計画となっているのか。

答

平成18年に東予有料道路が無料化され、市内へ流



渋滞する市内幹線道路

入する交通量が大幅に増加している。流入交通量が増加することで、幹線道路の渋滞が悪化し、それを回避しようとする車両が市道などの生活道路へ流入してくるのが現状である。

こういった状況を解消するため、長期的には道路網が計画整備されることが必要と認識している。

中期的な対策として、通学時の安全性を確保するため、交差点改良や歩道整備を行っている。短期的な対策としては、路肩や交差点内のカラー舗装化を行い、視覚的に歩行者と自動車を分離する取組を行っている。

また、一般国道においても児童・生徒の通学路を中心に、国土交通省の直轄事業として歩道整備が進められている。

今回の見直しは、都市計画道

路を含めた市全体の道路網について、社会の潮流を適切に認識し、交通の流れに見合った見直しを行い、道路網整備計画を策定することとしており、整備計画に沿った道路整備の推進は、利用者へ安全・快適を提供でき、抜け道を利用するドライバーの減少につながるものと考えている。

一般質問

どうなるの？

子ども手当の支給

(自民クラブ)

問

子育てを社会全体で支援する制度として子ども手当が創設され、平成22年6月から支給が開始されるが、本市の支給対象者数、支給総額はいくらか。

また、給食費や保育料未納者については、手当から未納分を天引きして支給するのか。

答

子ども手当の支給対象世帯数は、約9千150世帯、子どもの数は、約1万4千980人を見込んでいる。平成22年度の

支給は4月から翌年1月までの10か月分となり、総額は、約19億5千万円となる見込みである。また、支給方法は原則として口座振替であるが、一部保育料未納者については、窓口での現金支給を行う予定であり、子ども手当の現況届提出時に納付を促すとともに、現金支給時納付など、納付方法について未納者と相談を行っている。

給食費未納者については、子ども手当の支給にあわせ、給食費と子ども手当の口座を同一にするなど未納給食費の納付を促す予定である。

なお、国においては、滞納された給食費などを子ども手当から天引きするしくみを平成23年度以降の制度設計で再検討すると聞いている。



元気いっぱい！